

釜淵 優子（関西学院大学日本語教育センター）

早川 杏子（関西学院大学日本語教育センター）

1. クラス概要

本授業では、旧「日本語能力試験」2級レベルまでの漢字語の「読み」「書き」「意味・使い方」を身に付けることを目標とし、主に読みと使い方を中心に学習を進めた。

授業は1週間に1コマで、1つの課の後半と次の課の前半を進める。学期の前後半合わせて、本学センターオリジナルの教材である『中・上級の漢字・語彙③』から10課（21課～30課）を行った。

2. 授業内容

あらかじめ学生にテキストの意味を調べてくることを予習として課し、授業では漢字語の意味・用法等を詳しく説明してから、プリントの適語選択問題を解き、随時フィードバックを行った。説明では、特に用法を重視した。動詞の場合はどのような助詞をとり、文の表す意味を適格に表せるかを考えさせるようにした。また漢字圏出身の学生は、漢語の品詞や共起関係が母語と日本語の間で異なることがあるため、誤りやすい例などを挙げて両言語間での使用法についても注意を向けさせた。さらに、漢字の接辞（無-、不-など）、よく使われる慣用句なども取り上げ、語のみにとどまらず、より広い語彙的表現の習得を目指した。その他、旧「日本語能力試験」2級レベルまでの漢字語が含まれたテキストを読んだり、1級レベルの漢字語を学習したりするなど、学習の進度に合わせた指導を行った。

3. 成果と今後の課題

学生の授業評価として、進度や進め方に関しては、適切であるとの評価がほとんどを占め、受講者は漢字圏・非漢字圏ほぼ半数であったが、扱った内容のボリュームは、アンケート全体を通して皆ちょうど良かったとの意見であった。

本授業では、宿題としてA41枚の表に「読み」、裏に「書き」の全く同じ問題を書き、それを次の授業でのクイズとして出題していた。両面を同じ問題にしたのは、学習者が事前に自己チェックできるようにしたものだが、学生の中には、同じ問題をすることにやりがいを感じないという意見があったので、今後は、問題を「読み」と「書き」に分割するなどの工夫をするなどを良いだろうと考えている。